5GとVR技術を活用して遠隔で集合研修や作業支援ができる　「VR遠隔支援」を10月から提供開始

～製造業などのDXを推進し、技術の継承や遠隔地からの作業指示を効率化～

ソフトバンク株式会社　　2021年09月16日

ソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮川 潤一、以下「ソフトバンク」）は、株式会社ポケット・クエリーズ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：佐々木 宣彦、以下「ポケット・クエリーズ」）と協業し、製造業などのDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を目的に、5G（第5世代移動通信システム）と最新のVR（Virtual Realityの略、仮想現実）技術を活用して遠隔地からVR空間で集合研修や作業支援ができるサービス「VR遠隔支援」を、2021年10月から提供します。

「VR遠隔支援」は、360度カメラで撮影した映像を編集して研修用のVRコンテンツを作成し、VR空間で集合研修ができる他、工場などの現場に設置した360度カメラの映像をVRデバイスやタブレットへ伝送し、遠隔地からVR空間上で作業支援をすることができます。これにより、技術者の不足が課題となっている製造業などにおいて、熟練技術者による技術の継承や、突発的な不具合が発生した際の遠隔地からの状況把握や作業指示などを効率的に行えるようになります。

「VR遠隔支援」について

「VR遠隔支援」は、5Gと最新のVR技術の活用により、遠隔で集合研修や作業支援ができるサービスです。ポケット・クエリーズのサービスをベースに共同開発した、VR上でコンテンツの作成や同時再生、アバターの操作ができるアプリケーションと、5GやLTEなどの通信ネットワーク※1やクラウド環境をソフトバンクが一括して提供するため、お客さまは360度カメラとVRデバイスやタブレットを用意するだけで利用できます。また、ソフトバンクの5Gエリア内であれば、5Gの「高速・大容量」という特長により、高精細なVR映像を複数のデバイス※2に安定して伝送することが可能です。

[注]
※1 「閉域オプション」（インターネットを介さない閉域網構成）も利用可能です。
※2 アプリケーションの仕様により、VRデバイスやタブレットは最大10台まで同時接続が可能です。

「VR遠隔支援」は、主に下記の二つの用途で活用できます。

・遠隔集合研修やトレーニング
360度カメラで撮影した映像を、アプリケーション上の簡単な操作で、研修用のVRコンテンツとして編集することができます。例えば、VR映像内にマーキングしたり、視点を変えた他の映像を組み込んだりすることが可能です。完成したVRコンテンツを共有することで、VR空間で複数人が集合し、研修やトレーニングを行えます。

・遠隔作業支援
工場などの現場に設置した360度カメラの映像を、VRデバイスなどに伝送することが可能です。これにより、現場で突発的な不具合が発生した場合も、オフィスなどの遠隔地から現場の状況を把握し、迅速かつ的確な指示を出すことができます。

・SoftBankおよびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
・その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。